

みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第82号

発行日
令和2年12月1日

◇ 目 次 ◇

P-2:(自主活動)小なきり海岸の清掃作業

P-2:入浜池定点観察①、

入浜池維持管理作業①

P-7:紅葉谷・包ヶ浦自然歩道(スカイ歩道)

整備・清掃作業

P-8:投稿、編集後記

・廿日市市長に設立 20 周年記念特集号を謹呈

・「紅葉谷川庭園砂防施設」国の重要文化財に

指定

入浜でお猿さん



池の西側奥にエノキの大木があり、小鳥がよく群れています。この木を見上げるのは楽しみの一つで、この度も空き地の中央に立ち見渡していました。ふと動く気配を感じてワクワクしながら双眼鏡を覗きました。大きなピンクの顔の目と、私の目が合ってしまい、こちらは思わずフリーズ！そのままですっと写真を撮りました。

相手は、安心したのか？手を伸ばして枝を手繰り寄せてわずかに残っている実を食べ続けました。よく肥えて毛並みの綺麗な入浜の主(?)のお猿のようでした。私は声も出せずに静かに後ずさりしましたが、近くの民家の方々は、大丈夫なのでしょうか？

(写真・文：大西、2020.9.19 撮影)

自主活動**小なきり海岸の清掃作業**

日時：9月5日（土） 9:00～10:30

天候：小雨から曇り

参加者：猪谷 岩崎 元広 森 横路 平田
以上6名

環境省：山崎自然保護官 大平AR

新型コロナウイルスの感染拡大防止のための活動中止の後の再開最初の行事「自然公園クリーンデー」でしたが、台風の前触れなのか朝から雨のぐずついた天気、降水確率50%以上の場合は中止との規定により、公式行事としての実施はありませんでした。但し せっかく集まった8名により小なきり海岸を約1時間 清掃活動を行いました。

(文：岩崎 写真：大平AR)

**入浜池定点観察①****維持管理作業①**

日時：9月19日(土) 9:00～14:00

天候：快晴

参加者：岩崎 大西 奥田 恩田 河野 佐藤
末原 穂井田 増田 松田 村上 横路
以上12名

行事推進員：

(観察部会) 大西 小川 穂井田 松田 横路

(環境整備部会) 奥田 田内

新型コロナや天候の影響で活動中止が続いていましたが、6ヶ月ぶりの開催となり、12名の会員の参加がありました。

宮島栈橋前広場からタクシーなどで入浜まで移動し、9時30分に到着。早速、定点観測班と維持管理班に分かれ、作業開始。

12時過ぎに作業を終了し、昼食後各作業班の報告がありました。帰路で車の脱輪というハプニングがありましたが、無事に宮島栈橋に14時到着し解散しました。コロナ禍での作業であり、作業中を除く移動中のマスク着用を徹底しました。以下に各作業班の概要を記載します。

(文：河野)

入浜池定点観測①

【水質】 横路晃 会員

水質調査班：増田・奥田・横路

新型コロナウイルスの影響で自粛生活が続き、久しぶりの入浜池調査でした。この9月初旬に到来した10号台風は、“かぜ台風”とも言えるべきか、降雨量はあまり多くは無かったです。降雨量の多かった後によく見られる、池の北の山側からの湧水による山水の流れは有りませんでした。

C, (中央), C', D点付近はやや湿っているものの、陸地化しており採水が出来ませんでした。

よって、(中央)点から1m離れた付近で採水し、山側の水質の測定値としました。

	満潮(10時40分) 390cm			干潮(4時43分) 46cm		
調査時刻	9:45	10:50	10:03	10:14	10:32	11:14
測定箇所	A	B	中央	E	F	海水
水位(cm)	-10	5	無し	-10.7	0
塩分濃度 (%)	1.8	1.6	0.2	2.6	2.5	2.75
P H	7.2	7.4	6.8	7.7	7.9	8.1
COD	6	5	6	6	6	4
海水の流入状況 (F地点付近)	10時40分に測定 (長さ)1m間に要する時間=1.1秒 ※水路の(幅)85cm×(深さ)30cm					

今回は調査時刻が、大潮の満潮時刻と重なり、F点で海水が池の方向に勢いよく流入する様子が観測されました。各測定項目にもその影響が強く現れています。

塩分濃度とPHは、E、F点で海水と同程度になっています。中央、A、B点との測定値の違いは、調査時刻の経緯によるものです。各地点の水位のばらつきも原因が同じです。今年の夏は、海水の流入も適度に有ったためか、池の状態に大きな変化が無く、A点の付近にはヒトモトススキやハマゴウが繁茂しており、植物の生態系に大きな変化は無いと思われます。



水質調査 (写真: 河野)

【野鳥】大西順子 会員

春に日本にやってきて繁殖(子育て)した鳥は、秋には東南アジアやアフリカ地域を目指して日本を去っていく。春に日本を去ってシベリアや北極圏で繁殖(子育て)した鳥は、秋には日本に南下してくる。また他に、春にはオーストラリア方面から北極圏まで飛んで繁殖(子育て)して、秋にはまたオーストラリア方面まで飛んで行く鳥がいる。

それぞれを、夏鳥、冬鳥、旅鳥と分けている。

9月の末にはそろそろ移動している鳥たちが、1日~数日間意外な場所で休息していることがある。秋(9~10月)のこの時期は成鳥や幼鳥など様々な段階の鳥に会える。鳥好きにとっては、いつもとは違う期待をする季節です。さて、今日は次のとおり野鳥計23種でした。毎年立ち寄ってくれるノビタキに会えなかったのは残念です。

カルガモ	2	シジュウカラ	1
キジバト	3	ヒヨドリ	7
カワウ	1	メジロ	10+
アオサギ	成鳥2 幼1	イソヒヨドリ	♂2
ダイサギ	1	コサメビタキ	2
ウミネコ	1	スズメ	成6 幼1
ミサゴ	2	セグロセキレイ	1
トビ	9	カワラヒワ	1
コゲラ	1	メボソムシクイ	1
アオゲラ	1	オオルリ	雌1
ハシブトガラス	2	ハイタカ属	1
ヤマガラ	2	ソウシチョウ(外来種、当地初見)	2

夏鳥 旅鳥、その他留鳥



野鳥観察 (写真：河野)



メジロ (写真：穂井田)



カワラヒワ (写真：大西)



オオルリ (写真：穂井田)



キジバト (写真：大西)



メボソムシクイ (写真：大西)

【昆虫】松田賢 会員 (文・写真共)
入浜調査の報告 (9月のトンボ類など)

◆日時：2020年9月19日 9:35～11:20
晴れ，調査時気温：23.2～25.5℃，
風：弱

◆結果概要：コロナ禍に見舞われ，今シーズン初の入浜調査入りとなりました。

ラインセンサス調査で確認できたのは，アオイトトンボ，ベニイトトンボ，ギンヤンマ，オニヤンマ，シオカラトンボ，オオシオカラトンボ，リスアカネ，ウスバキトンボの5科8種40個体と少なめな印象でした。

確認個体数はウスバキトンボ，シオカラトンボ，オオシオカラトンボの順に多く，この3種で全体の8割を占めました。

ギンヤンマやオニヤンマは池の水面上をパトロール飛行する姿が見られました。アカトンボ類の「乱舞」にはまだ時期が早かったよ

うで、確認されたのはリスアカネ 2♂のみでした。

今回の注目すべき種は、ベニイトトンボです。ベニイトトンボは暖地性で、水生植物が豊かな池沼などに棲み、中国地方では古くから山口県西部を中心に多くの生息地が知られていましたが、2000年代以降、広島・島根両県でも不連続に点々と見つかるようになり、近年では広島県の沿岸部や内陸部のため池でまとまった数が確認されるなど、分布の広がりが伺われる状況となっています。

入浜では2017年7月に初めて確認され、みせん 69号に報告しましたが、今回、それ以来となる確認となりました。1♂のみの出現であり、発生の有無については何もいえませんが、今後の動向に注目したいと思います



乾燥標本。上がベニイトトンボ。アオイトトンボは胸部側面の下半分に白粉が生じているのがわかる（類似他種にはない成熟オスの特徴）



アオイトトンボ♂。このなかまは翅を半開きにしてとまるのが特徴的



砂浜には絶滅危惧種ヤマトマダラバッタも健在。色合い・紋様は、砂粒や枯葉の屑などに感動的にそっくりである。写真はオス（脱糞中！）



ハマゴウにとまるベニイトトンボのオス

維持管理作業①

【維持管理】 河野進 会員

入浜池に通ずる河口近くの水路に、9月初めの台風の影響か、電柱ほどもある流木2本(直径30cm長さ5m)が流れ込んで、水路を堰き止めており、木の枝・竹・葦の茎などが大量にありました。満潮に合わせてこの流木2本を7人がかりで引き揚げるとともに、竹なども取り除きました。これで流れが良くなりました。さらに、入浜海岸に漂着したゴミ(缶、ペットボトル、発砲スチロール、カキ養殖用パイプなど)を収集しました。収集したごみ量はゴミ袋十数個になりました。



作業前(流竹木堆積)(写真:河野)



流木引上げ(写真:村上)



作業後(流竹木除去)(写真:末原)

また、当日は新月の大潮(広島港:満潮時刻10時49分、天文潮位390cm)で、入浜池への海水流入が予測され、作業と並行して海水流入状況を観察しました。入浜池の水位が10~15cm上昇したことを確認しました。

奥田会員から入浜池への海水流入について次のような感想がありました。

「海水流入の流速がこんなに速いなんて本当にびっくりしました。この作業に何回か参加していますが、初めて見ました。今回の海水流入はまだ少ないほうと聞き、さらに大規模な流入を見てみたいと思います。」



収集ゴミと集合写真(写真:河野)

紅葉谷・包ヶ浦自然歩道 (スカイ歩道) 整備・清掃作業

日 時：10月31(土) 9:00～12:30

場 所：包ヶ浦自然歩道の紅葉谷入り口より
200m～500mの場所（昨年と同じ
場所）

天候：晴れ（気持ち良い秋晴れでした。）

行事推進員：森 佐藤

参加者：岩崎 河野 末原 三戸 村上 森 横路
（以上7名）

環境省：山崎自然保護官、大平 AR

研修会員：上杉（裕俊）上杉（幸江）下田
種本 長村 福岡 村上 森脇 吉賀
（以上9名）

体を使う作業をするには快適な日和でしたので参加者も多いかなと思っていましたが、コロナのせいか、会員はやや少なめの7名でした。今回は研修会員が9名参加され、総数18名となりました。

研修会員の方の初参加ということで集合場所の栈橋前広場で全員の自己紹介をし、その後、スコップなどの道具を持って紅葉谷に向かいました。途中の紅葉橋手前で、このたび、国の重要文化財に指定答申された「紅葉谷川庭園砂防施設」の説明が末原会長からあり、川辺に降りて見学しながら歩を進めました。



作業場所で河野整備部会長より作業手順の説明を受けた後、歩道約300mに渡って側溝に溜まった土砂や枯れ枝・枯れ葉の除去と流水でえぐられた歩道の補修と倒木、枯れ枝・枯れ葉の除去などを行いました。

研修会員の人数と個々人のパワーが大いに貢献して11時半頃には予定の補修・清掃は終わりました。

【作業前の状態】



非常に荒れていて歩きにくかった山道は、見違えるようになりました。

（おそらく、ここ何年かの気候からすると来年秋には、また荒れた状態に戻っているような気がします。）

【作業状況・作業後の状態】



紅葉谷公園のロープウェイバス停横の広場に戻って昼食を取り、研修会員の午後からの研修会がある宮島市民センターで解散しました。

参加された皆さん、お疲れ様でした。研修会員の皆さんの働きは素晴らしく、今後、長年にわたって貢献して頂けることを期待しております。

午後から新規会員への研修（座学）が行われました。



作業後の集合写真
(新規会員研修受講者9名も一緒)

(文：森 写真：河野)

*** 投稿記事 ***

廿日市市長に 設立 20 周年記念特集号を謹呈

11月5日環境省広島事務所山崎自然保護官と共に、松本太郎廿日市市長を訪問し、当会設立20周年記念特集号を謹呈しました。会の目的、活動内容等を説明し、市長から宮島の自然保護、公園整備、清掃活動等の地道な活動を実施していることへの感謝と、これからも継続して行くように激励の言葉をいただきました。(文：末原)

「紅葉谷川庭園砂防施設」 国の重要文化財に指定

国の文化審議会は10月16日に、「紅葉谷川庭園砂防施設」を重要文化財（建造物）に指定することを文部科学大臣に答申し、12月の官報告示を経て指定されます。

指定基準（意匠的に優秀なもの、歴史的価値の高いもの）は、紅葉の名所として知られる紅葉谷公園の風景や厳島の歴史的風致との調和が図られた戦後の砂防施設です。長崎県の西海橋と共に戦後の土木施設として初めての重要文化財指定であります。指定区間は、岩惣裏から上流へ688mの護岸、堰堤施設からなります。

紅葉谷川庭園砂防施設は昭和20年の枕崎台風による土石流災害で被災した災害復旧事業で治水上の機能の復旧のみならず、史蹟名勝に最もふさわしい施工をするために、国、県、学識経験者による委員会が作られ「史蹟名勝厳島災害復旧工事」として、昭和23年に着工し、昭和25年に竣工したものです。

史蹟名勝の環境にふさわしいように、造園の専門家の意見を聞くほか地元民の意見を尊重し、造る人の立場ばかりでなく、見る人の立場にも重点が置かれて、土石流によって堆積した巨石を利用して庭園風にした砂防工事です。この精神・施工方針は、樹木は切らな

い。野面石のまま使用する。巨石、大小の石材は絶対に傷つけず、また割らない等5項目の「岩石公園築造趣意書」の趣旨を忠実に守りながら工事を実施したものです。

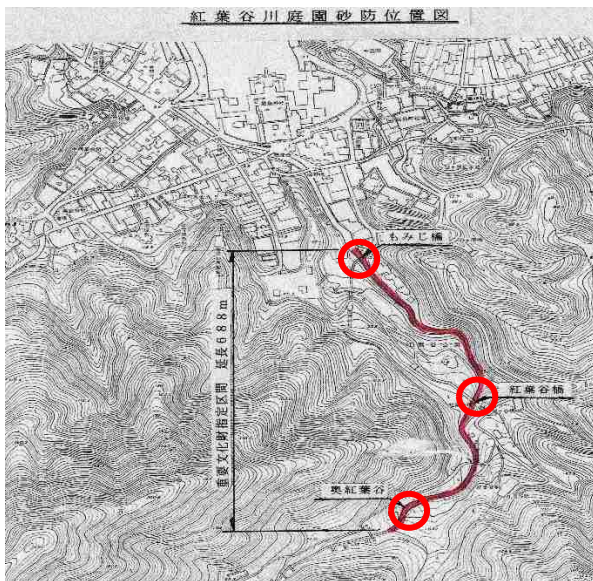
紅葉谷川庭園砂防施設は、この事業を完成させた当時の関係者の並々ならない熱意が感じられます。この工事の精神・施工の方針は、今日の環境対策としても卓越したものであり貴重な資源になっています。

※重要文化財とは

(文化財保護法第27条第1項) 文部科学大臣は、有形文化財のうち重要なものを重要文化財に指定することができる。

※有形文化財とは

建造物、絵画、彫刻、工芸品、書籍、典籍、古文書その他の有形の文化財所産で、我が国にとって歴史上又は芸術上の価値の高いもの並びに学術上価値の高い歴史資料のうち重要なもの。(重文と略称とされることが多い)



もみじ橋付近



紅葉谷橋付近



奥紅葉谷付近
(文・写真：末原)

◇ 編集後記 ◇

みせん 82号も新型コロナで自主活動含め3回の活動報告でしたが、原稿担当者のご協力の中身の濃い内容に仕上がっています。

(麻生)

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号
広島合同庁舎3号館1階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455